

# 風趣

## 北村中 3学年

**より良い作物を育てるために…「農家の努力と協力」  
技術の進歩と自然の調和を…**

私たちの住む「岩見沢市北村」は、豊かな自然と優しい人が多い地域だ。しかし、人口減少は著しく、アンケート調査を行って、その理由を考えた。その中で、「北村の未来」と「北村の農業」は切り離せないことに気づき、現在の北村の農業について、農家を営む父母に話を聞いた。

**「これからの農業」**  
私たちの学校の9割は農家である。跡を継ぎたいと考えている友達も多い。安定した農業を続けるためには、仕事の大変さを軽減し、収益を上げることが、仕事にやりがいや楽しさを見出し、やる気が必要だろう。

ワモロコシなどを輪作することだ(4年4作など)。同じ土地に同じ作物を毎年育て続けると、連作障害を起こす。麦の病気「立ち枯れ病」や「なまぐさ黒腐病」になりやすくなる。畑と水田は生える雑草が違うので、輪作は雑草対策にもなる。低コストで生産効率が「空型輪作体系」には高い。品質の向上、収益の増加につながる。効果的な仕事をする。①良い作物をつくる。②農業機械の進歩は著しい。「例えば…」と教えたくれたのが「GPS」。作業機の正確な位置を測り、農作業を行う際の走行経路をガイドするシステムで、ハンドルに機器をつけて自動操縦させることもできる。効率の良い運搬や夜間の運搬に有効である。また、肥料

7月26日、私たちは「第31回歴史の道を訪ねて」北村の記憶と遊水地・頭首見学(主催「郷土史を学ぶ会」)に参加した。正直、「北村には何も無い。参加者は少ない」と思っていた。しかし、「一定員40名となり、締め切った」と言われ、驚いた。なんと午前中だけ参加させていたのだ。バスで移動しながら、北村の歴史を学んだ。始めに、北村環境改善センターにある北村郷土資料コーナーを見学し、話を聞いた。北村がドジョウの産地として栄えていたことは知っているが、開村当時、北村牧場でバ

**「北村の記憶」**  
の純産物(毛織物)を作って、高く評価されたい。さらに、羊肉料理の研究にも取り組む。北村は「羊肉料理を産めた地」とも言われる。その後、北村開拓記念碑や遊水地の工事現場、その中にあたる地神碑、北村小学校跡地記

**「北村の歴史を訪ねて」**  
1856(安政3-5)年 北村藩領村から現地の地理知識を学んだ。通訳の通訳が、丸太の舟に乗って石狩川を往來し、北村の地に3郡置。1882(明治15)年 堤内敷道が開通。岩見沢停車場開業。1884(明治17)年 岩見沢村が設けられる。1894(明治27)年 北村藩領村が岩見沢市に合併。移住を受け入れ、開墾に着手。北村農場の始まり。1900(明治33)年 岩見沢より分離。北村藩領村の地にちなんで、「北村」と命名。発展していく北村の歴史の道が、度々起こる水害と向き合



12月に閉鎖 1月から新給食センター  
**北村調理所**  
調理所は、市内19校の給食をつくる共同調理所、栗沢地区4校の給食をつくる栗沢調理所も廃止し、新設した「給食センター」が集約されるのだ。私たちは北村の給食が大好きだ。そこで、北村調理所で最も長く働いている調理員、根本さん(22年)と山本さん(15年)に、北村の給食や北村調理所の仕事について質問し、話を聞いた。

**北村遊水地**  
北村では、5年前から遊水地をつくるための引越工事が行われていた。遊水地とは、集中豪雨などで川の水位が上がった時、水を一時的に貯留させる土地である。今回、遊水地について調べ、いくつか疑問に思うことを北海道開発局岩見沢河川事務所の菅野法之さんに尋ねた。

**北中の備えは?**  
今夏は気温が高く、猛暑になると予想された。実際、6月3日には音更町で最高気温31.8度(90年ぶり更新)、7月上旬には札幌で4日連続30度超(125年ぶり更新)など、北海道でも記録的な暑さが続いた。暑すぎると、稲の品質が落ちたり、細い麦になる。「害虫が増える」「干ばつになる」と、作物の生育が遅れたり、腐れが多くなるなど心配されたが、結局、それほど暑くもなかった。作物も順調に収穫できた。さて、次は冬の心配だ。北村は豪雪地帯で、吹雪が多い。毎年、臨時休業や下校できなくなることも度々ある。

**編集後記**  
題名「風趣」には、「風情のある味わい」という意味があり、北村の広大な自然や深い歴史をイメージして名づけた。今回、北村について調べ、多くの方から話を聞くことで、改めて北村の良さを知り、ふるさとへの想いを深めることができました。さらに多くの方に伝えたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

**猛暑? 吹雪?**  
北中の備えは? 今夏は気温が高く、猛暑になると予想された。実際、6月3日には音更町で最高気温31.8度(90年ぶり更新)、7月上旬には札幌で4日連続30度超(125年ぶり更新)など、北海道でも記録的な暑さが続いた。暑すぎると、稲の品質が落ちたり、細い麦になる。「害虫が増える」「干ばつになる」と、作物の生育が遅れたり、腐れが多くなるなど心配されたが、結局、それほど暑くもなかった。作物も順調に収穫できた。さて、次は冬の心配だ。北村は豪雪地帯で、吹雪が多い。毎年、臨時休業や下校できなくなることも度々ある。

**北中生は運動不足?**

Q1「運動が好きですか?」	好き 6.7%	嫌い 2.3%				
Q2「運動不足と感じますか?」	感じます 5.0%	感じません 5.0%				
Q3「1週間の運動時間(分)は?」	1-2000 3.5%	2000以上 4.4%				
Q4「自分が不足していると思う体力・運動能力は?」	体力(走る) 4.3%	ジャンプ力 1.6%	握力(握力計) 4.6%	柔軟性 5.3%	平衡性(フラミンゴ) 2.0%	巧緻性(ピン) 3.3%

全校生徒に運動についてのアンケートを行った。すると、半数が「運動不足だと感じる」と答えた。運動部員でも運動不足だと感じる人がいるのだ。1つ目の理由は、「通学方法」だ。北村は校区が広く、冬は85%の人が車(スクールバスまたは自家用車)での通学となる。夏は自転車通学も増えるが、それが約半数の人にも多い。しかし、単純に車に頼る傾向があり、「歩きたくない」「みんなも車だから」「すぐ行ける」「荷物が多い」など、これでは運動不足・体力低下も当然かもしれない。

「協力してもらえているがいろいろな考えがある」と思っている」と答えた。56水害のような数十年に一度の豪雨が降れば、遊水地に水が入ると、これからは農作業を続けることは難しい。しかし、水を入れる時のために住むことはできない。私の家も遊水地

対象となり、昨年引越した。約120戸の人々が住み慣れた家を離れなければならない。北村には多くの記念碑や歴史的建造物がある。中でも、村の名前の由来となった北村牧場は111年の歴史がある。これを機に難題、道内最古であるサウロの解体を決定したようだ。歴史や思い出のあるものもいずれ水の中に沈んでしまおうと思つた。残念でならない。しかし、今回工事の進め方を聞いてい

少しでも作った北村牧場とサウロの模型を見て、びっくりしてきてくれた。私たちが、56水害を知らない。経験した方は、「家の床120cm位水が浸かった」「小学校の床が浮いた」「自衛隊にボートで救助してもらい、大変だった」と言う。北村では、二度と水害被害のない未来のために今日も工事は続いている。

「北村の未来」は、豊かな自然と優しい人が多い地域だ。しかし、人口減少は著しく、アンケート調査を行って、その理由を考えた。その中で、「北村の未来」と「北村の農業」は切り離せないことに気づき、現在の北村の農業について、農家を営む父母に話を聞いた。

「これからの北村」  
人口の減少とは逆に、農家の規模は拡大している。その後の管理が楽になる。また、「ドローン」を使い、遠隔操作で除草剤や農薬を散布する農家も増えた。平成24年には、「いわみさわ地域ICT農業利活用研究会」が設立され、いろいろな「スマート農業」が推進されている。今後、機械を上手に使って効率よく作業することは不可欠だろう。

「これからの北村」  
人口の減少とは逆に、農家の規模は拡大している。その後の管理が楽になる。また、「ドローン」を使い、遠隔操作で除草剤や農薬を散布する農家も増えた。平成24年には、「いわみさわ地域ICT農業利活用研究会」が設立され、いろいろな「スマート農業」が推進されている。今後、機械を上手に使って効率よく作業することは不可欠だろう。